JACLaP WIRE No.81 (2005年4月1日発刊)
****
本メールは日本臨床検査専門医会の電子メール新聞JACLaP WIRE No.81です。
****

==========≪目次≫==========

【事務局からお知らせ】
　会員動向（2005年3月25日現在数685名，専門医489名）
【第15回日本臨床検査専門医会春季大会の開催にあたって】
【ホームページに関するお知らせ】
　平成15年度厚生労働科学研究報告書：臨床検査専門医による体外診添付文書関連
【お知らせ】
【WHOトピックス】
　麻疹による死亡者が過去5年間に世界で40%減少＜Press March 2005 WHO-183＞
【ＭＴＪ（The Medical & Test Journal）３月１日号から】
【ＭＴＪ（The Medical & Test Journal）３月11日号から】
【ＭＴＪ（The Medical & Test Journal）３月21日号から】

==========≪JACLaP WIRE≫==========

【事務局からのお知らせ】
会員動向（2005年3月25日現在数685名，専門医　489名）

【新入会員】
正木浩哉　先生　：関西医科大学臨床検査医学
田中郁子　先生　：藤田保健衛生大学医学部臨床検査部
通山　薫　先生　：川崎医科大学検査診断学

【所属・その他変更】
茂木積雄　先生：旧　国立療養所翠ヶ丘病院内科
　　新　独立行政法人　国立病院機構　いわき病院
武田　勇　先生：旧　島根県赤十字血液センター
　　新　（財）島根難病研究所
中澤　功　先生：旧　信州大学医学部病理学第一
　　新　国立病院機構　松本病院　検査科
加藤元一　先生：旧　済生会京都府病院臨床検査科
　　新　京都第一赤十字病院　検査部
梅田　遵　先生：旧　利根中央病院
　　新　せせらぎ病院附属　あさくら診療所

山本洋介　先生：旧　香川県立がん検診センター
　　新　徳島県立中央病院　中央検査部
岡部紘明　先生：旧　熊本大学医学部臨床検査医学 教授
　　新　東京文化医学技術専門学校 校長
中原一彦　先生：旧　東京大学医学部臨床検査医学 教授
　　新　独立行政法人 大学評価・学位授与機構 教授
橋詰直孝　先生：旧　東邦大学医学部大橋病院臨床検査医学研究室 教授
　　新　和洋女子大学 家政学部健康栄養学科 教授
舩渡忠男　先生：旧　東北大学大学院医学研究科分子診断学 助教授
　　新　京都大学医学部 保健学科 教授
村田　満　先生：旧　慶應義塾大学医学部内科・中央臨床検査部(兼任) 講師
　　新　慶應義塾大学医学部 中央臨床検査部 教授
矢冨　裕　先生：旧　東京大学大学院医学系研究科臨床病態検査医学分野 助教授
　　新　東京大学大学院医学系研究科 臨床病態検査医学 教授
山田俊幸　先生：旧　順天堂大学医学部臨床病理学教室 助教授
　　新　自治医科大学臨床検査医学 助教授
渡辺清明　先生：旧　慶應義塾大学医学部 中央臨床検査部 教授
　　新　東京臨床検査医学センター 所長

【退会会員】
大谷英樹　先生：総泉病院

【教育セミナー・GLM 教育セミナーのお知らせ】
本年度の教育セミナー申し込みは２月１９日に締め切りました。今年も多数の先生方からの参加申し込みがあり、開催施設での準備が進められています。参加される先生方には開催施設から集合場所、時間、準備するものなどの通知がありますのでお待ち下さい。

【総会のお知らせ】
春季大会の開催に会わせて、本年度第一回総会を開催いたします。
日時：平成１７年４月９日、午後
会場：
議題は
1．平成 16 年度決算報告・承認
2．会則の一部改訂
第１章 総則、第 2 条　本会の事務所は会長の指定する施設におく。
これを事務所新設に伴い
本会の事務所は東京都千代田区神田駿河台 2-1-19　アルベルゴ御茶ノ水 505 号室におく。

と改訂する案。
3.その他
総会開催と、出欠の通知のはがきをお届けしました。
もし、欠席されるときには委任状をお願いいたします。

【今年度会費振り込みのお願い】
今年度会費の振り込みをお願いいたします。
振り込み状況の確認は、事務局まで FAX、あるいは E-mail でおたずね下さい。
会費の振り込み用紙は、教育セミナーの申込用紙とともに同封してあります。
すでに先生のお名前が記入されていますので、所属、住所、E-mail address の変更がありましたら通信欄に記入をお願い致します。

==========≪JACLaP WIRE≫==========
「第 15 回日本臨床検査専門医会春季大会」の開催にあたって

大会長：関西医科大学　臨床検査医学　高橋　伯夫

「栄枯盛衰」によく似た格言が数多く存在しますように、もて囃されると攻めの気持ちを失って守りに入り、結局、攻め滅ぼされます。これに奮起して、新たにエネルギーを蓄積して攻める、となり、事は輪廻・流転を辿るのが世の常であろうかと思います。臨床検査の世界が、正にそのようなうねりの中にあるように思えます。攻められてばかりですので、そろそろ方策を練って攻略すべき時期にあるのではないでしょうか。臨床検査専門医の軸足は常に「臨床検査」に置くことは言うまでもないことでしょうが、臨床検査の技術的な側面がその進歩の速さから主導権を検査機器・試薬メーカーに取られている現状を直視せざるを得ません。他方、臨床検査を幅広く理解して臨床医に情報を提供するだけであれば、専門分野の臨床医と下手な競合になります。私は、このような背景で何をなすべきかを自問しても納得できる自答が得られないのが実情ですが、多くの皆さんも同感ではないでしょうか。

職能団体である日本臨床検査専門医会は、会員数が少なすぎることが一番の障害となって、団体として対外的に示威行動が功を奏しません。そこで、今回の春季大会では、最初に臨床検査専門医が軸足とすべき「臨床検査の最近の進歩」をテーマに、その分野のエキスパートによりミニ・レビューを最初にお願いします。続く、昼食の時間を有効活用するつもりで「臨床検査専門医の育成」をテーマにご討論をいただきます。午後には、日臨技・臨薬協のメンバーならびに当会の代表にお願いして、「臨床検査医が関わる課題」について、それぞれの立場からご意見を出していただく予定です。このパネル・ディスカッションでは、互いの団体を批判するのではなく、互いに高め合うことを目的とするもので、前述のような厳しい環境にある臨床検査業界を如何にして改革・活性化するかを会場の皆さんが真剣にお考えいただく契機として戴き

たいと思う次第でございます。
　最後に、大阪市中央公会堂のレストランで懇親会を持ちます。議論不足は、アルコールで景気づけし、消化していただきたいと存じます。大阪市中央公会堂は、最近、巨費を投じて改装され、情緒のある素晴らしい建物に生まれ変わった、大阪、中之島を代表する建築物の１つでございます。折しも、この日は日本内科学会の最終日でもございます。一見の価値のある建築物の見物、また、内科学会へのご出席のついででも結構ですので是非とも専門医会春季大会にご参加いただきますよう宜しくお願い申し上げます。
　なお、会場の都合で開場が午前9時20分でございますので、お時間をご確認下さい。
以上

==========≪JACLaP WIRE≫==========
【ホームページに関するお知らせ】
平成15年度厚生労働科学研究報告書(臨床検査専門医による体外診添付文書アンケート結果)について
以前、体外診添付文書アンケートに臨床検査専門医として、ご協力いただきましたが、その研究報告書(体外診断薬の添付文書のあり方及び適正な安全性情報の提供方法に関する研究　国立国際医療センター　主任研究者　葛谷信明)が送付されてきました。臨床検査専門医による体外診添付文書アンケート結果をホームページ(http://www.jaclap.org/news/taigaisindan.pdf)に掲載しましたのでご覧ください。
尚、研究報告書全体をご覧になりたい方は、事務所に保存してありますので、ご連絡ください。

==========≪JACLaP WIRE≫==========
【WHOトピックス】麻疹による死亡者が過去5年間に世界で40%減少
＜Press March 2005 WHO-183＞
　WHOとユニセフの発表によると、麻疹ワクチンの投与してきた国々において麻疹死亡者数が半減したという。麻疹死亡数が1999年には87.3万人であったのに対し、2003年には53万人に著減(39%)した。死亡率が最も減少したのはアフリカ諸国で46%であった。麻疹は小児の死亡原因として極めて重要なテーマであった。10年以前には、何百万人の小児が毎年死亡し、3000万人以上が感染し一生続く盲目と脳障害と闘ってきた。9か月から14歳までの小児に対し、麻疹ワクチン接種90%以上の達成を目標とした戦術を、各国がここ数年続けてきた成果といえる。麻疹の死亡者が激減した結果、アフリカ大陸の各地域の病院で麻疹病棟が閉鎖され、それに伴い他の疾患の治療が行えるようになった。次の大きな目標は5歳以下の小児95%に、各種ワクチンを接種し、麻疹や小児麻痺を防止すると共に、蚊・寄生虫駆除剤の散布により、これらのウイルス感染症を予防する計画を立てている。
(獨協医科大学越谷病院臨床検査部　森　　三樹雄)

==========≪JACLaP WIRE≫==========

【ＭＴＪ（The Medical & Test Journal）３月１日号から】

◎ 東大病院　「遺伝子検査」で他施設の検査受託スタート

厚生労働省が病院における検体検査業務の受託要件への緩和案に関するパブリックコメントを募集したことを受け、東京大学病院は他施設からの検体検査受託を遺伝子検査から開始する方針だ。病理検査については、十分な受託体制を整備してから受託をスタートさせる見込みだ。これに先立ち東大病院は、２月 18 日までに、他病院からの検体検査受託範囲を病理検査、遺伝子検査にとどめず、将来的には受託検査範囲の拡大などを求めた意見書を提出したことを明らかにした。

◎ 日本光電　米アボット社と製品供給・販売契約

日本光電はこのほど、全自動血球計数器２機種を米アボット・ラボラトリーズに製品供給し、アボット社が独自ブランドで日本と中国以外の海外市場で販売を行う内容の契約を締結したことを明らかにした。海外でのさらなる拡販を目指す日本光電と、血球計数器のラインナップ充実を図りたいアボット社の思いが合致し、今回の契約になった。アボット社は今年夏からの販売を目指して準備を進めているという。

◎ ニプロ　ホルダー付き採血針を発売

ニプロは採血時の患者の負担を軽減し、感染を防止する「採血針ホルダー付」（滅菌済み）を２月 15 日から、全国の医療機関向けに発売した。
新製品は、ホルダーと採血針を一体化した医療用具として開発した。主な特徴は、滅菌済みの真空採血管との組み合わせによって、ｉ）駆血帯をしたまま簡単に採血ができるため、１回で確実な採血が可能 ii）ホルダーは、１回限りの使用のため、血液を介した交差感染を防止できる　など。価格は 50 個入りで 1850 円。（TEL06-6373-3168）

【ＭＴＪ（The Medical & Test Journal）３月 11 日号から】

◎ 厚労省　「病院の病理検査反復受託」は原則、通知に準拠を

病院が専門性の高い検体検査業務を受託する際の要件に関するパブリックコメントを締め切った厚生労働省医政局総務課の担当者は３月３日、「規制強化だという意見

もあるが、そもそも病院は他施設の検体検査を反復して受託できないことになっている。つまり不定期でかつ突発的な依頼に対して研究用として検査依頼を処理してきたと認識している」とし、「反復して業として依頼を受けるケースについては、今後、（３月上旬に出される）通知に準拠してやっていただきたい」との考えを明らかにした。

◎ 日臨技　一般検査の認定制、第三者機関を設けて実施へ

日本臨床衛生検査技師会は３月４、５の両日、日臨技会館で管理監督者研修会を開いた。一般検査の認定制について日臨技常務理事の今村文章氏（健康保険諫早総合病院）は、「今後、日臨技が学識経験者などから成る第三者機関を設置、そこで認定を行っていきたい」と述べた。一般検査領域の認定制ついては、今後、協議会や審議会、プログラム委員会を立ち上げて、17 年度中には認定制を行いたいとし、今後、学会を持たない認定制については、この第三者機関が認定制を行う方向性で検討が行われていると述べた。

◎ 栄研化学　小型の尿自動分析装置

栄研化学は３月３日、新しい尿自動分析装置「US-1000」を発売した。今回開発した「US-1000」は、グローバル戦略商品として「使いやすさ（User Friendly)」と「高性能（High Performance)」をコンセプトに、同社の独自技術の CCD カメラ測光方式を採用し、持ち運びできるようにした小型・軽量タイプ（Ａ４サイズ、約３kg)。

◎ 癌研とオリンパス　がんの診断と転移機構解明で共同研究施設設立

癌研究会とオリンパスは、がんの診断技術や転移機序の解明を目指す共同の研究施設「オリンパスバイオ・イメージングラボ」（以下、共同ラボ）を設立し、４月１日から稼働させる。癌研究所が東京・有明に移転したことに伴う新事業で、同研究所の「癌化学療法センター」内に新設する。オリンパスとしてもがん研究分野で医工連携のラボを設けるのは、今回が初の試み。共同ラボの研究テーマは、(1)細胞を用いた抗がん剤の効果の評価、(2)小動物を用いたがん転移機構の解明。

◎ 富士レビオ　持ち株会社名は「みらかホールディングス」

富士レビオはこのほど、持ち株会社の新社名を「みらかホールディングス」に決定したと発表した。同社は、常に一歩先を見据えて科学の応用・展開を図っていく方針

で、「未来（みらい）＋科学（かがく）」から「みらか」と命名した。新社名の実施日は７月１日。

【ＭＴＪ（The Medical & Test Journal）３月 21 日号から】

◎ 2004 年のＦＭＳ・ブランチラボ導入は 994 病院

臨床検査メリトクラシー研究会が３月 13 日、都内で開かれ、深谷日赤病院検査部の原繁一技師長は、2004 年時点でＦＭＳを導入している施設が 258 病院に対し、ブランチラボ導入施設が 736 病院で、合わせて 994 病院がＦＭＳあるいはブランチラボを導入しているとの調査結果を明らかにした。

◎ ＩＴ化推進で厚労省　Ｗｅｂ型で電子カルテを普及

厚生労働省は３月 11 日に開かれた公明党の規制改革委員会に、規制改革・民間開放推進会議が３月中にまとめる「追加答申」の主要検討項目に対する考え方を提示した。同推進会議が求める医療分野のＩＴ化の推進に対しては、電子カルテシステムの普及策として、2005 年度から地域中核病院などを対象に「Ｗｅｂ型電子カルテ」を導入する補助事業を行い、周辺の医療機関が中核病院にアクセスすることで安価で短期間に電子カルテソフトを導入・使用できるようにすると説明。レセプト電算処理については、05 年２月現在の普及率が 16.5%にとどまっていることを踏まえ、医療機関の導入経費を削減するツールの開発などに努めるとした。

◎ 臨薬協　機器リースシステム販売契約の再検証は３月末までに完了へ

日本臨床検査薬協会は３月 14 日、本紙の取材に対し、会員各社が進めている「機器リースシステム販売契約」の再検証を、３月末までに完了する見通しを明らかにした。これは、臨薬協が今年１月初めに実施した「機器リースシステム販売契約書の再検証の進歩調査」から分かった。

◎ 健康食品管理士会が発足　生涯教育を実施

健康食品管理士認定協会（理事長＝長村洋一・藤田保健衛生大教授）は３月 13 日、名古屋市で、「健康食品管理士会」の発足式を開いた。昨年からスタートした資格制

度である健康食品管理士の生涯教育機関として、今後、教育研修事業を行っていく予定。設立趣旨などについて説明した長村理事長は、同協会が昨年 11 月に実施した健康食品管理士の第１回認定試験で 1149 人が合格したことを明らかにした。

◎ ＪＣＣＬＳ　「尿中変形赤血球の判定基準（試案）」を承認

日本臨床検査標準協議会（ＪＣＣＬＳ、渡辺清明会長）は２月 24 日、幹事会・評議員会を開き、尿検査標準化委員会（伊藤機一委員長）で検討が行われていた「変形赤血球の判定基準（試案）」を承認した。判定基準は、尿中赤血球については均一赤血球に属する形態と変形赤血球に属する形態を定義。変形赤血球の判定基準は、低頻度変形（変形率５～40%未満、一部多彩性と認められる）、中等度変形（変形率 40～80%未満、多彩性を疑う）、高頻度変形（変形率 80%以上、強い多彩性を疑う）に分けて報告するとした。

◎ エスアールエル　食品ヒト試験の検査項目の開発、導入を推進

エスアールエルは、食品の生理活性をヒトの体内で評価する食品ヒト試験の検査項目の開発、導入を進め、医薬品・食品メーカーだけでなく、医療機関向けに受託の拡大を図る。昨年末に混合診療問題が条件付きで解禁となり、今後、特定保健用食品を使った診療やその評価のための検査が見込まれること、健康増進法の施行に伴い、食品メーカーや医薬品メーカーによる特定保健用食品の開発が盛んで、厚生労働省の許可を取得するための検査ニーズが見込まれると判断したため。

==========

JACLaP WIRE, No. 81 (2005 年 4 月 1 日発刊)
☆発行：日本臨床検査専門医会［情報・出版委員会］
☆編集：JACLaP WIRE 編集室　編集主幹：満田年宏
TEL:045-787-2721 ・ FAX:045-786-0392
☆本 WIRE の記事購読(配信・停止)・広告等に関するお問い合わせ先：
E-mail：uys-com@umin.ac.jp
☆日本臨床検査専門医会事務局（入会・退会）に関するお問い合わせ先：
senmon-i@jaclp.org
☆日本臨床検査専門医会ホームページ
http://www.jaclap.org/
☆JACLaP WIRE バックナンバー：
http://www.jaclap.org/wire/index.html#TOP

==========